

福知山公立大学  
「数理・データサイエンス・AI教育プログラム」  
自己点検・評価書

令和3年5月  
福知山公立大学  
自己点検・評価委員会

## 1. 点検・評価の実施

前年度開講した「数理・データサイエンス・AI 教育プログラム（リテラシーレベル）」に関連する授業科目の点検・評価を行った。内容、方法、教育プログラムの達成・進捗状況の点検・評価を行なった。

## 2. 点検・評価の対象

授業科目の点検・評価では、前年度開講した授業科目「統計学」「情報リテラシー」「データサイエンス入門」「医療統計学」並びに授業担当教員による学生の学修成果の評価を対象とした。

## 3. 自己点検・評価体制における意見等

### (1) 学内からの視点

自己点検・評価の視点	意見・結果・改善に向けた取り組み等
プログラムの履修・修得状況	令和2年度よりプログラムをスタートしているため、令和2年度の入学生から対象となっている。 そのため、地域経営学部の履修者は2名、取得者は1名にとどまっているが、専門基礎科目等を優先して履修している可能性が高いため、2年次以降にかけて履修者の増加が見込まれる。 情報学部は学部の性質もあり、履修者73名、取得者は59名であった。本プログラムの対象者が1年生であることから2年次以降にかけて、履修者は増えるものと想定している。
学修成果	本プログラムは令和2年度からスタートしたプログラムであり、自己点検・評価につながるフィードバックは今後行っていく。なお、指定科目のうち、「統計学」「医療統計学」は従前から開講していた科目であり、これらの科目は「社会調査士」「診療情報管理士」の資格に関わる指定科目であり、資格取得につながっている。
学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度	毎年、教務委員会が「授業評価アンケート」を年2回（7月、2月）実施しており、学生の理解度について確認している。具体的には、授業評価アンケートの「シラバスに記載されている到達目標は、どの程度達成できましたか？」という項目に対して「とても達成できている」「達成できている」「どちらともいえない」「あまり達成できていない」「まったく達成できていない」の5段階評価により、学生がそれぞれの科目の到達目標に対してどの程度達成できたと考えているのか確認している。

<p>学生アンケート等を通じた後輩等他の学生への推奨度</p>	<p>授業評価アンケートの結果をうけて教員が作成するリフレクションペーパー（振り返りシート）を学生に公開することで、プログラム科目の重要性等を授業担当者から周知する機会となり、後輩学生や他の学生への推奨に活かしている。</p>
<p>全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況</p>	<p>令和2年度の履修者数は、地域経営学部2名、情報学部79名であった。</p> <p>令和2年度入学生については、昨年度の履修者数に加え、地域経営学部15名、情報学部25名が新たに増加している。これにより、当該入学年度の学生の入学定員における履修率は、地域経営学部17%、情報学部94%となる。地域経営学部は3年次以降も指定科目を履修する余地があり、履修率の上昇が期待できる。</p> <p>令和3年度入学生については、令和3年度の年間の履修登録をすでに完了している。地域経営学部は履修者0名であり、昨年度同様、1年次での履修者は少ないが、年次が上がるにつれて履修者、取得者も増加する見込みである。情報学部は、履修者82名、履修率は82%であり、引き続き高い水準を維持している。</p>

(2) 学外からの視点

<p>自己点検・評価の視点</p>	<p>意見・結果・改善に向けた取り組み等</p>
<p>教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価</p>	<p>本学の当プログラムは2020年度から開始しており、現時点で修了者は在籍中のため、本項目は該当いたしません。</p>
<p>産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見</p>	<p>当該プログラムのうち、データサイエンス入門は市民の聴講受講者を受け入れた実績があり、授業アンケートに加え、聴講受講者の声を今後の教育プログラムの質の向上につなげていくことを予定している。</p> <p>また、2020年度は、国勢調査が実施される年であったが、市の統計担当職員との意見交換を通じて、講義に国勢調査の歴史と意義を取り上げた。こういった手法には好意的な意見が寄せられている。</p>

	<p>2021 年度に市と本学が共同で実施するシニアワークカレッジ事業に先駆けて、ニーズをたずねるアンケート調査を実施しところ、本学に教育資源をもとに、いわゆる AI の導入やデジタルデータの利活用の高度化をはかる導入教育への期待が高いことが示されている。さらに、実践的な課題解決を通じた学びの機会へのニーズが高いことも示されている。このように、地域の産業界から本学に対して、連携と教育プログラムの提供の期待があり、本年度はデータサイエンスコースと機械学習入門コースの社会人向けプログラムを開講する。このような場を通して、社会人向けプログラムの受講生の声、さらには、当プログラムを修了した本学学生の次年度におけるインターンシップ等の実践も通じて、プログラムの内容への意見を得ていく体制を整える。</p>
--	---

(3) その他

自己点検・評価の視点	意見・結果・改善に向けた取り組み等
<p>数理・データサイエンス・AI を「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること</p>	<p>当該プログラムのうち、データサイエンス入門は市民の聴講受講者を受け入れた実績があり、授業アンケートに加え、聴講受講者の声を今後の教育プログラムの質の向上につなげていくことを予定している。</p> <p>また、2020 年度は、国勢調査が実施される年であったが、市の統計担当職員との意見交換を通じて、講義に国勢調査の歴史と意義を取り上げた。こういった手法には好意的な意見が寄せられている。</p> <p>2021 年度に市と本学が共同で実施するシニアワークカレッジ事業に先駆けて、ニーズをたずねるアンケート調査を実施しところ、本学に教育資源をもとに、いわゆる AI の導入やデジタルデータの利活用の高度化をはかる導入教育への期待が高いことが示されている。さらに、実践的な課題解決を通じた学びの機会へのニーズが高いことも示されている。このように、地域の産業界から本学に対して、連携と教育プログラムの提供の期待があり、本年度はデータサイエンスコースと機械学習入門コースの社会人向けプログラムを開講する。このような場を通して、社会人向けプログラムの受講生の声、さらには、当プログラムを修了した本学学生の次年度におけるイン</p>

	<p>ターンシップ等の実践も通じて、プログラムの内容への意見を得ていく体制を整える。</p>
<p>内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること</p>	<p>本学では、新入生に対して入学前アンケートを実施し、新入生の志望動向、各学部の系またはトラックに対する関心の状況を調査し、その結果を教員で共有できる体制をとっている。加えて、入学者の入試区分と1年次のGPAとの対応の分析を行い、教員が学生の志向や学力レベルに応じた授業を行っているか、また、その水準の確保がなされているかについて、自己評価・点検委員会で確認を行う。</p> <p>情報学部では新入生に対する数学のプレースメントテストを実施しており、多様な入学生の学力に応じた履修指導を行い、水準の維持と理解の促進をはかるようにしている。</p> <p>履修生に対する授業アンケートの結果が教員にフィードバックされ、教員はリフレクションペーパーを作成することが制度化されている。このような形で授業改善をはかるシステムを採用するだけでなく、アンケートにおいて高い評価を得ている講義を聴講する機会も提供している。</p>